

部活動でがんばっている生徒へ

4月26日（日）、岡田正治全国高体連会長はオンラインで記者会見を開き、「夢舞台の中止に大きな悲しみがあることは痛いほど承知しているが、命を守ることを選んだ」と令和2年度のインターハイ中止を発表した。ある県の高体連会長は「子どもの命と大会をてんびんにかけること自体が間違っている」としてインターハイ中止を支持し、また、高体連専門部のある担当者は「決断を引っ張れば、今以上に生徒を苦しめることになる」と戸惑いつつも中止の結果を受け止めていたようである。

本校生徒もインターハイ出場を目指し、日々努力を重ねてきた。その努力には心より敬意を表したい。しかし、新型コロナウイルスの関係で、3月以降部活動が全くできない状態となってしまう、全国大会出場を目指して練習に励んでいた生徒には申し訳ない気持ちでいっぱいである。インターハイ出場と言う目標が消えてしまった今、心に大きな穴が開いてしまった生徒も大勢いることだろう。しかし、部活動をとおして学んだことはたくさんあるはずである。苦しいとき、悲しいとき、そして楽しいとき。多くの仲間とともに練習をし、苦楽をともにした仲間がいたからこそ今日まで頑張ることができたのである。インターハイの夢はたたれたかも知れないが、その仲間と過ごした日々のことは忘れないでほしい。いつまでも仲間を大切にしてほしい。また、土日も関係なく練習をしてきた生徒諸君も勿論立派ではあるが、毎日お弁当をつくり、試合があれば応援に駆けつける保護者のことも忘れないでほしい。試合ともなれば選手以上に熱くなっている保護者の方も多く見かける。スタッフと陰で支えてくれる人達が一体となって、ワンチームとなって部活動を支えているのである。周りの人への感謝の気持ちも忘れないでほしい。

これからは、自分の進路を決めるときである。気持ちを切り替えて前に進んでほしい。休業期間中も電話による進路相談日を設けている。積極的に活用してほしい。進路では勝者になって本校を卒業することを期待する。

令和2年4月28日（火）
群馬県立桐生工業高等学校
校長 藤生 卓也